

# ディサースリアと摂食嚥下障害を同時に治療・訓練するアプローチ：各論 「舌へのアプローチ」

<sup>1)</sup> 川崎医療福祉大学, <sup>2)</sup> 新潟医療福祉大学

○福永真哉<sup>1)</sup>, 西尾正輝<sup>2)</sup>

西尾 (2017) により開発された高齢者の発話と嚥下の運動機能向上プログラム (Movement Therapy Program for Speech & Swallowing in the Elderly: MTPSSE) は, 系統発生学的論拠と臨床的エビデンスに依拠してディサースリアと摂食嚥下障害を同時並行的に治療するハイブリッドアプローチである。また, 治療と予防を志向している点でもハイブリッドアプローチであり, 発話と摂食嚥下機能が健常な状態にある者から機能障害がある者まで, 対象範囲は広く, かつ発話と摂食嚥下障害の重症度も, 軽度から重度まで適応となる。負荷量, 筋収縮様式, 強度, 速度, 反復回数, 角度などの条件を重視し, とりわけ, 運動生理学的理論として, 過負荷 (オーバーロード) の原理, 特異性の原理, 可逆性の原理を重視している。

本プログラムのメイントレーニングの構成は I. 可動域拡大運動プログラムと, II. レジスタンス運動プログラムの2つからなり, いずれも対象と目的が明確に規定されている。

本セミナーセッションでは本プログラムのうち, 舌筋 (内舌筋, 外舌筋) の運動について, I. 可動域拡大運動プログラム (7小項目) と II. レジスタンス運動プログラム (10小項目) について, 我々の研究成果も踏まえて解説する。

まず, 可動域拡大運動プログラムでは, 舌背の挙上運動, 舌の前方突出運動, 舌の上前方運動, 舌の下前方突出運動, 舌の左右移動運動, 舌の側方突出運動, 舌根の後退運動を, 多様な角度での自動介助・自動運動, 舌のリーチ動作, 鏡による視覚的フィードバックなどのテクニックを活用し, 綿密かつ的確に可動域の拡大を図る。

レジスタンス運動プログラムでは, 「タ」を活用した舌尖の挙上運動, 「ニャ」を活用した前舌・中舌の挙上運動, 「カ」を活用した奥舌の挙上運動, 舌背の挙上運動, 舌の前方突出運動, 舌の左右移動運動, 舌の上前方突出運動, 舌の下前方突出運動, 舌の側方突出運動, 舌根の後退運動を, 多様な角度での抵抗運動, クロスオーバーテクニック, チューブトレーニング法, パワートレーニングなどのテクニックを活用し, 的確に

筋力とパワーの増大を図る。

当日は, これらの手技について実演と演習を交えて解説し, 参加者に習得して頂く予定である。

最後に, 舌の機能的治療効果はそれだけで終わってはならない, 日常生活における会話や食事へと般化させなくてはならないことを忘れてはならない。そのさい, ディサースリアにおいて, 会話訓練は重要な役割を果たすことを付記しておきたい。

### 文献

西尾正輝: フレイル・サルコペニアと摂食嚥下リハビリテーション: あらたなる挑戦 (介入編). 高齢者の摂食嚥下運動機能向上プログラム MTPSE. Geriatric Medicine, 55 (6): 655-682, 2017.

西尾正輝: フレイル・サルコペニアと摂食嚥下障害. ディサースリア臨床研究, 7: 28-38, 2017.

西尾正輝: 高齢者の発話と嚥下の運動機能向上プログラム (近刊予定, 学研メディカル秀潤社).

### 用意して頂きたいもの

①手鏡, ②綿棒複数, ③舌圧子 (数枚), ④キッチンバサミ, ⑤ペンライト, ⑥バイトブロック標準サイズ, ⑦デンタルフロス

### ■略歴

川崎医療福祉大学感覚矯正学科教授 (医学博士), 筑波大学人間学類心理学主専攻卒業, 日本聴能言語学院卒業, 長尾病院, 姫路獨協大学教授を経て現職。